

平成 30 年度 第 1 回千曲市地域公共交通活性化協議会 会議概要

期 日：平成 30 年 6 月 19 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

場 所：千曲市役所更埴庁舎 人権ふれあいセンター

出席者：委員出席 17 名（6 名欠席）、事務局 3 名

会議事項

(1) 平成 29 年度千曲市地域公共交通状況報告について

平成 29 年度千曲市地域公共交通状況報告について事務局より説明。

<委員からの意見・質問とそれに対する回答>

(荒井委員)

資料 6 ページの車両状況について、大循環線東回りと西回りの写真が同じだが、1 台で 2 路線を運行しているということか。

(事務局)

大循環線東回りと大循環線西回りでそれぞれ 1 台ずつ、計 2 台で運行している。

(荒井委員)

資料 9 ページの返納後の生活に不安があるかのグラフで、グラフの下にある①～⑥の項目に対する割合は、どこの数字とリンクしているか。

(事務局)

返納後の生活に不安が「ある」と回答した方に、不安に感じる理由を①～⑥の項目で質問しているので、「ある」と回答した 48%の方の内訳となっている。

(柳澤委員)

資料 9 ページのこれからの移動手段のグラフで、家族等の協力がある、近隣の知人に依頼する、と回答した方は、近くにバス路線がないのか。それともあるにも関わらず、サービスレベルが自分にあっていないため利用しないのか。

(事務局)

そこまで分析をしていないので回答できないが、この事業を受けた方の住所は全員把握しているので、そこから分析することができる。

(新井委員)

資料 10 ページのマタニティタクシー事業について、申請者と利用者の数字が異なるのはどうい
うことか。

(事務局)

申請者全員が利用しているわけではない。

(新井委員)

平成 29 年度で言えば、申請者 431 名に 14 枚ずつ交付しているということでしょうか。

(事務局)

はい。交付方法については、一括交付と担当から聞いている。

(井藤委員の代理 山田委員)

マタニティタクシーと障害者支援タクシーはどのような形態で運行しているのか。また、収支は
どうなっているのか。

(事務局)

この 2 つの事業については別の課が担当しているので詳しくは回答できないが、新井委員はよ
く知っているのではないかと。

(新井委員)

千曲市の福祉事業の一環で、タクシー会社に対する助成金。

(井藤委員の代理 山田委員)

運行形態としてはタクシーで、それに対するチケットがあるということか。

(新井委員)

はい。

(宮本委員の代理 佐塚委員)

自主返納事業について、自主返納した方がどのくらいいて、どれだけの方がこの事業を受けているか。

(事務局)

平成 28 年度は年間 140～150 名ほどの自主返納があったと聞いている。この事業を受けた方が今日現在で 84 名という状況にある。

(洞委員の代理 齊藤委員)

アルピコ交通の場合、姨捨線 2 名、大田原線 1 名の乗務員を充てているが、他の路線は平日 1 日あたりどのくらい乗務員を充てているのか。

(事務局)

運行事業者の方が出席しているので回答いただきたい。

(久保委員)

4 路線を 4 台、6 名の乗務員で運行している。

(事務局)

シンリク観光は本日欠席なので、事務局で把握している数字だとだいたい 6 名ほど。

(洞委員の代理 齊藤委員)

運行経費増加の中で、修繕費が嵩んでいると説明があったが、燃料費が高騰しているので、状況を共有しておく。

(2) 地域間幹線系統確保維持計画について

平成 31 年度地域間幹線系統確保維持計画について長電バス(株)佐々木委員より説明。

<委員からの意見・質問とそれに対する回答>

(柳澤委員)

運行目標はどの根拠により設定したのか。また、昼間の利用者はどうなっているか。

(佐々木委員)

補助対象外系統を含む 9 路線すべてを維持したい。昼間の時間帯は利用者が少ないが、全体で均すと 19 人となる。

一番利用が多いのは通学。通勤については定期外で利用していた方が定期になると収入は下がるが人員は増える。様々な課題があるが、総合的に判断して 20 人と設定した。

(柳澤委員)

昼間の利用状況は厳しいのか。

(佐々木委員)

「厳しい」の基準は分からないが、正直言って厳しいと言える。

(柳澤委員)

運転免許証を自主返納した高齢者に対しての利用促進に向けた取組はあるか。

(佐々木委員)

高齢者から、バスの利用方法がわからないなどの素朴な疑問があったので昨年度、長野市でアルピコ交通と一緒に実施した。今年は 5 か所を予定している。

来年以降、県警や長野県とタッグを組んで、高齢者の動体視力等を計測し、そのあとバスに乗っていただいて、IC カードの利用方法も説明するなど、一連の流れの中で行っていく。昨年は講義だけでなく寸劇をやり、大変好評だった。

また、乗務員への特別教育を行い、計画的に進めていく。

(柳澤委員)

効果の検証はどのように行うのか。

(佐々木委員)

効果は5年先10年先を見ている。すぐには結果に結びつかないので、長い目で見ていただきたい。

(事務局)

車両更新について、大型ではなく小型にする検証はされたか。

(佐々木委員)

朝夕の利用者は多く、昼間は少ない状況となっている。全8台で朝夕をカバーしているため、カバーできないキャパの車両は意味がないので、大型を導入する。

(3) 千曲市地域内フィーダー系統確保維持計画について

平成31年度千曲市地域内フィーダー系統確保維持計画について事務局より説明。

<委員からの意見・質問とそれに対する回答>

(柳澤委員)

登録者に対する利用者はどのくらいなのか。また、1便あたりの乗車人員はどのくらいか。

(事務局)

実際の利用者はだいたい30~50人くらいだと実感している。また、1便あたりは2.5人くらいだと思うが、補足等あれば新井委員にお願いしたい。

(新井委員)

1回でも利用したことがある方の人数はおそらく把握していないが、事務局の言った30~50人というのはコアに利用されている方の数字である。これは全体利用者の80~85%を占めると思われる。

(柳澤委員)

1便あたり2.5人は比較的多いと感じるが、乗合を進めるために何か利用促進を行っているのか。

(事務局)

1ヶ月の利用者は約350人、運行日数は約20日、1日あたり6~7便の運行実態があるので、単純に計算すると2.5人という数字になる。

(新井委員)

補足すると、例えば、南から北に行く方と東から西に行く方が同じ時間に予約をした場合、便としては1便カウントだが、台数は2台または3台出ることになる。これを含めると1便あたり平均1.73人の利用となっている。

(4) 千曲市地域公共交通網形成計画について

既に開催した2回の分科会での会議内容について事務局と分科会長の柳澤委員より説明。

<委員からの意見・質問なし>